

兵 庫 県
保 險 医 協 会

加古川
高砂

支部ニュース

No. 255

2018年11月15日

発行

兵庫県保険医協会 加古川・高砂支部

(連絡先) 神戸市中央区海岸通一丁目三十一

神戸フコク生命海岸通ビル五階

電話〇七八(三九三)一八〇一

【第37回総会開催】 誠弘会池袋病院 平川亘先生記念講演に95人

「明日から役立つ

認知症のかんたん診断と治療」

加古川高砂支部は10月20日に、加古川プラザホテルで第37回総会を開催。2017年度活動報告と、2018年度の方針を確認し、「身近に存在し役に立つ支部活動」を基本に、学術研究会や、審査・指導学習会、スタッフ研修会など、多彩な活動に取り組んでいくことを申し合わせた。

役員改選では、新しく、支部長に西村正二先生(加古川市)、副支部長に佐々木一先生(加古川市)、幹事に三木健史先生(高砂市)、相談役に岡部桂一郎先生(高砂市)の就任が提案され、承認された。

記念講演では、埼玉県の誠弘会池袋病院副院長・脳神経外科部長の平川亘先生を講師に「認知症の診断・治療の新しい考え方―明日から役立つ 認知症のかんたん診断と治療―」をテーマに、医師・歯科医師・看護師・薬剤師・患者家族・行政職員ら95人が参加した。



認知症の診断と治療法を解説する平川亘先生

認知症患者の笑顔と

介護者の幸せを治療の指針に

平川先生は、認知症のかんたん診断について「臨床における認知症の病型診断は治療を前提に考えた方がよい。最も大事なのはレビー小体型認知症と前頭側頭型認知症(ピック病)を見逃さないことだ。レビー小体型認知症は薬剤感受性が高く、認知症治療薬(コリンエステラーゼ阻害薬)の副作用が出やすく、ピック病はコリンエステラーゼ阻害薬により興奮性の行動・心理症状



認知症患者の治療後の変化を映す動画に会場が何度もどよめいた

(BPSD)が悪化することが多いからである。この両者を除外した上でアルツハイマー型認知症と脳血管性認知症を区別する。日常診療におけるアルツハイマー診断は指模倣テストと時計描画テストが有効」と解説した。

認知症のかんたん治療について「認知症治療を成功させるには各薬剤の特性を知ることが必要であり、患者に合った薬剤を選択した上で患者をよく観察し、投与量には細心の注意を払い、副作用を出すことなく治療することが大事である。そして抗認知症薬のパフォーマンスを最大限に引き出せれば、治療成績は必ず上がる」とした。

〈参加者から寄せられた声〉

- ◆大変面白い内容で、今までの常識をかえるような話でためになった(医師)、
- ◆平川先生の本を読んできた。深く理解できた(医師)、
- ◆ものすごく勉強になった。意外なことが多すぎて本当にびっくりした(薬剤師)、
- ◆日々、BPSDの軽減に困難さを感じつつケアしているが、認知症治療の今後に希望と期待を持つことができ、ケアする者にも意欲が与えられた(看護師)、
- ◆認知症患者やその家族に接するときの参考となる話が拝聴できた(加古川市役所福祉部職員)。

次号で感想文を掲載予定。

(支部活動の報告と方針は2面に掲載)

【医療安全管理研修会】

9月22日に開催された医療安全管理研修会「服薬管理の今日的課題」(254号既報)に参加した後藤倫子先生と井上泰利薬剤師の感想を紹介する。

感想文① グループワークで 服薬管理の向上へ

今回、そろそろ医療安全講習を受けたいな、と思っていた時期でもあり、すぐに申し込みをしました。

講師の中野氏のヒューマンエラーについてのお話は、身につまされる内容であり、忙しい時ほど慎重に何事にも対応するようにしなければと思いました。その後のグループワークでは、四つの班に各職種が分かれ、処方、内服等、服薬管理について問題点を書き出しながらか話し合いました。

自分一人では気が付かないことや、それぞれの立場での悩みがあるようで、それを聞くことができ、大変ためになりました。20分程の討議でしたが、おおむね皆の意見で一致したことは、「できるだけ内服薬は少ないに限る」「医師間の連携、医師とその他の職種との連携がスムーズになると良い」ということでした。

【2017年度活動報告】

- 1、第36回支部総会(2017年12月2日)は、加古川中央市民病院 救急科主任部長の切田学先生を講師に招き「加古川中央市民病院における高齢者救急医療の現状と課題」東播磨の救急現場の現状と課題」と題して記念講演を開催し、医師・看護師・スタッフ・自治体関係者ら51人が参加した。
- 2、会員懇談会(2018年1月27日)を開催し、「医療法人の運営と税務の留意点」解散・事業継承を中心に「」をテーマに、協会税務講師団の坂本麻生税理士を講師に招いて、会員・家族ら5人が参加した。講演後の新年会では、フレンチデイナーコースを楽しみながら日頃の医院経営の悩みなど意見交流を行った。
- 3、診療報酬改定研究会を開催し、医科会場(3月22日)に96人、歯科会場(3月24日)に63人が参加した。診療報酬を引き上げ、安心・安全の医療拡充と医療従事者の待遇改善を求める決議を採択した。
- 4、職員接遇研修会「患者接遇の基本」病医院での接遇力UPとクレーム対応」(2018年5月19日)を開催。大手前大学の水原道子先生を講師に迎え、会員・スタッフら49人が参加した。
- 5、臨床研究会「各科で学ぶアレルギーで困った症状の診療と診断のコツ」を(2018年7月14日)開催。兵庫県立加古川医療センター 地域医療連携部長 兼 診療部皮膚科部長 兼 神戸大学皮膚科臨床教授の足立厚子先生を講師に迎え、医師・看護師・養護教諭ら21人が参加した。

6、医療安全管理研修会「服薬管理の今日的課題」(2018年9月22日)を開催。調剤薬局コンサルタントの橋本ネグジツト総研の中野康三氏が「ヒューマンエラーの発生要因と未然防止の考え方」をテーマに講演し、メイキ薬局代表取締役 役で薬剤師の橋慶一朗氏が薬剤師の立場から話題提供した。医師・看護師・薬剤師・介護職員ら20人が参加した。

結局のところ、どんな職種間でもコミュニケーションがうまくできていけば、何事も円滑に進むというわけではないでしょうか。この職種間のコミュニケーション(連携)の問題が永遠のテーマなのかもしれません。

この永遠のテーマを解消できそうなのが、加古川医師会が推奨しているバイタルリンクかもしれません。私も最近加入し、利用してみると思った以上に、多職種間の連携を取りやすいツールだと感じました。こういうツールを利用していくことで、随分と悩みは解消される気がします。

今回は、皆様の率直なご意見が



グループワークでは各職種の立場から感じている服薬管理の問題点と解決策を出し合った

うかがえてよい機会でした。(加古郡・後藤医院 後藤 倫子)

感想文② コミュニケーションの 重要性を再確認

中野康三氏の講演では、エラーを分類し、その分類に応じて対策を考える必要があるということやエラーの発生しやすい状況を知り、エラーの発生を防ぐ手段を学びました。特に印象に残ったのが、エラーを防ぐための手段の増加や多重チェックのしすぎがかえってヒューマンエラーの発生を増やしてしまうことがあるという所でした。

橋慶一朗氏の講演では、患者さまを中心に多職種の方との連携の難しさなど、同じ薬剤師として共感することが多く、勉強になりました。

その後、職種別にグループワークを行い、複数の課題について話し合いました。短い時間ではありましたが、それぞれの職種における問題点や解決策を検討する中で、コミュニケーションの重要性を再認識し、日常の仕事に活かしていきたいと思えます。

(加古川市・薬剤師 井上 泰利)

- 7、会長を引き受けている加印社会保障推進協議会がしばらく活動休止状態だったが、活動再開に向けた臨時役員会を開催し、事務局が参加した。
- 8、未入会員対策として、支部役員に紹介状の協力要請を行った。加古川中央市民病院、県立加古川医療センターを重点に勤務医対策を行いながら、会員病院訪問も行うなど組織拡大に積極的に取り組んだ。
- 9、支部ニュースの定期発行に努めて2017年11月〜2018年10月までに10回発行したが、会員投稿を募るなど一層の紙面の工夫が必要である。
- 10、支部活動の基本である幹事会を開催し、活動の推進と活性化に努力した。しかし、幹事の出席者数などでは改善の余地があり、引き続き努力していきたい。日常的に新しい役員の発掘を心掛け、新幹事を迎えることができた。

【2018年度活動方針】

1、第37回支部総会(2018年10月20日)は、埼玉県の誠弘会池袋病院 副院長 脳神経外科部長の平川亘先生を講

- 師に招き「認知症の診断・治療の新しい考え方」明日から役立つ「認知症のかんたん診断と治療」と題して記念講演を開催する。
- 2、会員の要望をもとに、学術研究会や気軽に参加できる会員懇談会などを積極的に行う。また、在宅医療への取り組みや、医科歯科共通の研究会などを開催する。
- 3、保険請求や審査、指導・監査に関する情報交流や医院経営問題など、協会ならではの活動にいつそう力を注ぐ。
- 4、引き続き「接遇研修」「医療安全管理対策」に関する研究会や講習会など、スタッフも含めた企画を引き続き開催する。
- 5、未入会員対策として、引き続き新規開業医とともに勤務医対策にも力をそそぐ。
- 6、加印社会保障推進協議会は、会長を引き受けている団体として活動に協力する。特に医療制度問題では積極的な協力・共同をはかるとともに、「健康と医療について語り合う会」などを通じ、他団体との交流を強める。
- 7、日常診療に役立つ情報、地域の情報提供、さらには「会員紹介」などを企画し、会員相互のコミュニケーションを培う支部ニュース作りをめざす。
- 8、支部活動の基礎となる幹事会の充実のため、出席者の確保をふくめ改善をめざす。そのために会員の積極的な参加を促す。